

「事業名：公・民・学共創による持続可能まちづくりを通じた復興知人材育成」**東京大学 連携市町村：新地町****現地拠点：相馬郡新地町駅前1丁目5番地 観海プラザA棟1階 新地アーバンデザインセンター****事業のポイント**

福島県新地町において、次世代の学びの基盤創出、地域活動の実践型演習、大学の知の集積と地域への還元、それらを統合した持続可能まちづくりを、現地拠点UDCしんちを活用して公・民・学共創により実践する。これにより、復興の状況や内外の社会情勢の変化に順応し、創造的にまちづくりに貢献する復興知人材を育成する。

人材育成目標

① 学校の地域学習に大学の持つ知的資源を融合させた授業の受講をととして、地域への当事者意識を醸成し、高校卒業後も地域と主体的に関わることでできる中高生世代の育成、②地域の関係人口として、時間の経過とともに変化する地域の復興状況や、地域の人の心情や意向を丁寧に理解するという地域に関わる観点を習得し、それを実践することができる大学(院)生の育成、③町の未来を見据えた地域づくりや人づくりにかかる活動を、主体的に企画ならびに実践できる地域住民の育成

2025年度の活動内容

- UDCしんちは、2026年度の自走化に向け、地域主体の運用体制に段階的に移行するとともに、復興知事業で構築した人材育成基盤の継承について、新地町と議論を進める。また、活動地域のゆるやかな拡大を図る。
- 自治体との連携により現地拠点に専従スタッフ(地域おこし協力隊員)を配置し、大学の知を活用した地域主体のまちづくりの支援体制を強化する。UDCしんちのスペースを地域活動やイベント等で積極的に活用し、地域に開かれたまちづくり拠点であることを広く発信することで、地域づくりに興味を持つ住民の参加を促進する。
- 「地域活動デザインスタジオ」は、住民と協働の地域づくりの実践を冊子にまとめ、その経験を地域と共有する。
- 「情報環境デザインスタジオ」は、被災者に寄り添うために制作したメディア作品の展示会を浪江町で開催する。
- 「関係人口創出プログラム」は、観光振興をテーマとした研究成果を卒業論文としてまとめ、地域と共有する。
- 「環境システム学輪講」と「環境システム学輪講」は、新地町の再生可能エネルギーとエネルギー需要について取組んだ研究成果を、提案として町と共有する。また、その研究成果を「尚英中学校エネルギー学習」と「尚英未来エネルギー倶楽部」において還元し、地域の次世代エネルギー人材育成に貢献する。

取り組みによって得られる成果

2026年度に自走化する「UDCしんち」は、新地町の多様な主体が協働しながら運営を継続する。これにより、本事業が目指す「地域による持続可能なまちづくり」が新地町において実現される。また、大学の知を活用して構築された人材育成基盤を通じ、新地町の発展を地域の内外から支える「復興知人材」が、継続的に輩出される。



地域スタジオ
(出張UDCの社会実装)



情報環境デザインスタジオ
(「忘却」に抗うメディア表現」
成果アーカイブサイト)